

科目名		物理療法学			授業の種類	講義	講師名		
授業回数	8回	時間数	15時間	(1単位)	配当学年・時期	理学療法士科2年		必修・選択	必修

〔授業の目的・ねらい〕

物理療法学は、運動療法と並び理学療法士の重要な治療手段である。この授業では、物理療法の種類、効果やその生理学的背景を中心に講義をする。

〔授業全体の内容の概要〕

物理療法を実施するために必要な手順、リスク管理、機器の操作方法、各種物理療法の種類とその生理学的背景を知ることができる。

〔講師の実務経験〕

岡波総合病院、上山病院、けいはん医療生協、昭和病院、日本健康機構株式会社にて、理学療法士として16年間勤務

〔授業終了時の達成課題(到達目標)〕

①各種物理療法の種類を理解する。②疼痛の起こる機序について、その生理学的・病理学的背景を理解する。③各種物理療法の適応と禁忌、リスク管理を理解する。

回数	講義内容
1	物理療法の定義、効果や種類に関するオリエンテーション
2	温熱療法総論
3	寒冷療法総論
4	水治療法、超音波療法総論
5	電気刺激療法総論
6	電磁波療法、レーザー療法総論
7	光線療法総論
8	脊椎牽引、マッサージ療法、CPM、バイオフィードバック療法総論
	定期筆記試験

【 準備学習・時間外学習 】

【 使用テキスト 】

書籍名	著者名	出版社
物理療法学	松澤正	金原出版

【 単位認定の方法及び基準(試験やレポート評価基準など) 】

筆記試験により評価する。